

◆平成25年度県公連第132回主事部会研修会【報告】



1. 開催日 平成25年6月28日(金) 13:30～16:30
2. 会場 浦安市当代島公民館
3. テーマ 楽しく!楽しい!講座づくり～地域の“親和度”を高めよう!～
4. 講師 RE Learning(リ・ラーニング)代表 秦野 玲子 氏
5. 開催趣旨

「せっかく企画した講座に人が集まらない」、「新しい講座はどうやって企画したら良いのだろう」、「とりあえず去年と同じ講座を開催しておけば」…。人もいない、予算もない、時間もないなど公民館職員の悩みも色々だと思います。なぜ、公民館で講座、教室を開催するのでしょうか、どんなことを考え、どこに気を配って事業を計画すれば良いのでしょうか。今回の研修会では、公民館職員としての経験もある講師から、講座づくりにおける意義などについてお話いただき、参加者同士、情報交換をしながら講座づくりについて考えていきたいと思っています。

6. 研修概要

元神奈川県藤沢市の職員で社会教育主事として3ヵ所の公民館と生涯学習課での勤務を経て、現在は、行政での実戦経験と成人教育の専門研究を基に、大学等で講師を務められている秦野氏を講師に招き、誰のために講座を企画するのか、どのようなことに気を付けて講座を企画すれば良いのかを視点に研修会を開催しました。

はじめに講師から、公民館に勤務する職員として、地域住民の学びの支援をするとき、どのようなことに気を付けたら良いのか、対象は誰なのか、なぜ、講座を開催するのかなど、ただ人集めができないということではなく、誰のために、何のために講座を開催するのかを明確にすることが大切。特に対象者によっても学びの支援の仕方は異なり、“大人の学び”を支援するときには、学習者の「学びたいこと」を「自分

自身の力で取り入れる」ように援助することが職員の大変な役割であると説明がありました。

また、今回の研修会では、参加者がグループに分かれ、実際に作られたチラシを見ながら、良い点や改善できることなどを発表し合い、チラシづくりのヒントについて考え、さらにグループごとに、課題整理と事業計画のワークシートを活用しながら、自らが住む地域で、気になることは何なのか、今、どのような状況になっているのか、なぜそうなったのか、それをどうしたいのか、どうすれば解決できるのかと順序立てることで、課題の整理がし易くなること、また、その課題を解決する手段として講座を企画することについて、グループごとに考える機会としました。

経験年数、地域の実情などが異なる59名の公民館職員の参加を得て、時間も不足気味の研修会となりましたが、地域の課題が何なのか、また、その課題をどのように解決していけば良いのか、講座を企画する上で、6W3Hを考えることがヒントになるとの講師の説明は大変参考になり、参加者の感想からも「他自治体の公民館職員と様々なことを話す機会となり参考になった。」、「講座を企画する際、課題の見つけ方、講座企画のヒントが見つかった。」、「講座づくりの基本に立ち返ることができた研修だった。」など、たくさんの意見が寄せられました。

◆平成25年度県公連第133回主事部会研修会【報告】



1. 開催日 平成25年10月2日(水) 13:50~16:30
2. 会場 船橋市海神公民館
3. テーマ 若者×公民館の可能性～30代・40代を公民館に引きつける方法～
4. 講師 文教大学人間科学部 専任講師 青山 鉄兵 氏
5. 開催趣旨

若者離れが進んでいる公民館の現状に鑑み、公民館を活性化させる手段として、30代・40代が、気軽に利用できる、参加できる公民館のあり方について考える研修会を企画いたしました。

今回の研修会では、社会教育学、青少年教育論がご専門の講師から、基調講演を頂き、講師と参加者がグループ討論や熟議などのワークショップをしながら、30代・40代を引きつける公民館について考えていきたいと思います。

6. 研修概要

社会教育論、青少年教育論を専門とし、文教大学、国立青少年教育振興機構等で講師として、また、東京YMCA長期キャンプのスタッフとしても活動されている青山氏を講師に招き、若い世代の方々を公民館に引きつけるためにはどうしたらよいかということを視点を研修会を開催しました。

今回、講師を務めていただいた青山氏は、まさに30代。自身の体験などを交えながら快活なトークで楽しい研修会となりました。

講師から、はじめに公民館に若者を集めたいというけれど、若者の地域離れは公民館だけの問題ではないということ、公民館にこそできることは何かを考える必要があること、若者が公民館に来るメリットは何なのかを考える必要がある。その上で「若者×公民館の可能性」を考えると、どんな学びを提供したいのか⇒地域をどのように変えたいのか⇒そうすると地域にとって、若者にとって、どんないいことがあるのか（ただ来ていないから集めるのではない）⇒公民館の存在意義に繋がるはず。との説明がありました。

学習ニーズの基礎知識として「要求課題」と「必要課題」についても触れられ、両者のバランスを取ることが、人集めをする上で重要な鍵になること、特に若者に興味を持ってもらうためには、必要課題よりも要求課題を重視すること、また、実際に若者が集まっている「ラーニングバー」、「キッズニア東京」、「シブヤ大学」を事例に人が集まる理由として、学習者中心の発想、学習環境（雰囲気、参加し易い）の作りこみ、効果的なブランディング（カッコ良さ）が大切という説明は大変参考になりました。

漠然と若者を公民館にという思いもありましたが、若者が集まる先にどのような地域の未来を見据えるのかを考えることが重要であることに気付かされたような時間となりました。今回の研修会参加者は44名。「若者を集めることがゴールではなくスタートラインという認識が必要。」、「行政のみならず色々な場面での成功事例が参考になる。視野を広げていきたい。」、「色々工夫することによって、色々な企画ができる。公民館で働くことが楽しいと思った。」など研修会企画側としても嬉しい感想もたくさんいただきました。

◆平成25年度県公連第134回主事部会研修会【告知】

1. 開催日 平成26年2月26日（水） 14:00～16:30
2. 会場 木更津市立中央公民館
3. テーマ さらに充実した公民館事業をめざすための自己点検と評価
4. 講師 千葉大学非常勤講師 越村 康英 氏
5. 開催趣旨

「公民館の設置及び運営に関する基準」が全面改訂された2003年、県公連研究委員会ではどこよりも早く公民館評価問題を取り上げ、『さらに充実した公民館事業をめざすための自己点検・評価に関する研究報告書』（2007年3月）をまとめました。それから6年、公民館を取り巻く状況は更に多様化し、各地方公共団体の状況に応じた公民館評価を具体化することが今求められています。

そこで、改めて公民館評価の目的とは何か、公民館評価の主体は誰なのか、行政評価とは違う公民館評価を行政組織内で認知させるためにはどうすればいいのか、一緒に考えていきたいと思えます。

6. 申し込み 各地区公連の県公連主事部会幹事へ（平成26年2月12日（水）締切）

以上、主事部会から報告があまりました。

県公連NEWS 編集：千葉県公民館連絡協議会広報委員会